

小児看護学実習
実習指導要項

小児看護学実習

1 実習のねがい

小児看護では、こどもが家族や社会の中で健やかに成長・発達をとげるように援助することを目標としている。そのため、成長・発達過程にあるこどもの特徴をとらえ、こどもの健康状態に応じた看護を実践する力を養っていききたい。また、こどもは家族や社会とのつながりの中で育っていくことから、看護の対象はこどもだけでなくその家族も含めて考えていくことや社会の中でこどもを守り育てるためにどのような連携が必要か考えていく力も求められるため、こども園・小児病棟・小児科外来・小児科新生児室・特別支援学校、重症心身障害児施設、または心身障害児福祉センターと様々な場で実習を行うことで、幅広い視野でこどもとその家族への支援を考えられるようにしていきたい。静岡市子ども・子育て若者プランを策定し、こどもの成長に応じた切れ目のないサポートの実現に取り組んでいる。安心・安全に子どもが育つための支援や環境の整備がすすむ中、効率的かつ効果的な施策展開を実現させていく必要がある。よって小児看護学実習では、小児看護の対象者が様々な機関や制度を利用しながら、その人らしい暮らしを送れることを支えるための地域における活動の実際を体験する実習とする。

こども園実習では、日常の生活でこどもと接する機会が少ない学生が、こどもたちと積極的に関わり、ありのままのこどもの姿を知ってほしい。こどもへ関心を寄せ、こどもたちが生活しながら学び育っている姿をとらえ、こどもたちの自ら学ぶ力を肯定的にとらえ、健やかに育っていくために必要な支援について考えられるようになることを期待したい。

病棟実習、小児科新生児室実習、外来実習（一般外来・乳児健診・予防接種外来）、発達障がい児支援施設実習で、健康障がいを抱えたこどもたちとその家族と関わり、こどもとその家族の思いを聴くことで、健康障がいがかこどもや家族に及ぼす影響を考え、看護のあり方を考えていきたい。自分の思いを言葉で十分表現できないこどもたちの思いを受け止め、こどもたちが健康障がいを受け止め、立ち向かう力を引き出すために看護者として何ができるのかを考え、苦痛を伴う治療におけるこどもの権利を護るために何ができるのかを迫る姿勢を育みたい。短期間で施設を回っていく実習であるため、看護師の看護を見学することが多いが、日々のカンファレンスで見学やこども及び家族と関わる中で体験したこと、感じたことを自由に表現し、看護について考えていきたい。実習最終日にはこどもや家族に必要な地域における看護について自己の考えを深めていけるようにプロセスチャートを作成し、学んだことを表現していきたい。

<実習目的>

社会の中で暮らす子どもの健やかな成長発達促進に向け、児とその家族に対する看護の役割について学ぶ。

<実習目標>

- 1 社会の中で暮らす小児とその家族の特徴を理解し、成長発達を促すために必要な援助を学ぶ
- 2 小児の権利を尊重し、小児やその家族に必要な看護援助を体験的に学ぶ
- 3 小児を取り巻く保健・医療・福祉・教育など、各組織の機能と連携を理解し、看護の役割について考える

<評価規準> (めざす姿)

- 1 小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している
- 2 小児の成長発達段階や個別性に応じた援助を考え実践している
- 3 小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている
- 4 小児や家族との関わりを通して自己の小児観を深め、地域社会における小児看護の役割を表現している

2 実習内容・学習方法と指導方法

① こども園実習：1～3日目 (9時間×3日)

学習活動	時間	学習内容	評価規準	評価資料	指導方法
社会の中で暮らす小児やその家族について理解する	8:30	こども園の概要、保育指針、安全管理について理解する ・こども園園長よりオリエンテーションを受ける(1日目のみ、2・3日目は8:30より各クラスに入る)各クラスに入った際、担当保育教諭に本日の目標を伝える	小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している	こども園実習記録 カンファレンスの発言	こどもと関わる機会の少ない学生がこども園のこどもたちと関わるができるように、実習にあたりこども園園長・担当指導者と打ち合わせを行い、オリエンテーション内容・方法を調整する 事前に学生へ小児各期の発達特性発達課題、小児とのコミュニケーション技術について知識を確認し、年齢に応じた観察ができるように指導する
小児の成長発達を促すための取り組みを実践する	11:30 12:00	幼児期にあるこどもの成長発達の特徴、日常生活習慣の実際と習慣を身につけるための援助方法を学ぶ。また、こどもたちが遊ぶ様子を観察し、こどもにとって遊びの意義を考え、社会性を身につけていく過程を学ぶ ・各クラスにて、こども園の日課に沿って子どもたちと一緒に過ごす ・保育教諭の指導のもとに日常生活援助を行う ・子どもたち同士のトラブルなどがあった場合は、保育教諭に相談する 昼食準備やこどもたちと食事をすることで、こどもの食行動と自立に向けた支援の方法を学ぶ ・こどもたちと一緒に食事の準備を行う(食事用エプロンと三角巾着用) ・クラスで食事を一緒に取り、児の状況に応じた食事介	小児の成長発達段階や個別性に応じた援助を考え実践している 小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている 小児や家族		実習中は、クラスにてこどもたちと関わる事が出来ているか確認し、相談があった場合に対応する こどもへの対応方法で困っている様子が見られた場合は、状況を確認してアドバイスを行う

小児の権利を護るための行動をする	13:15 ～ 14:15 ～	<p>助を行う（食事後に休憩を取る）</p> <p>小児の成長発達の特徴や日常生活の様子から、小児とのかかわり方、自立に合わせた支援の方法、望ましい環境について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生カンファレンスを主体的に実施する ・こどもたちの日常生活習慣の状況や自立に向けた支援について、遊びの状況から社会性を養う過程、言葉の発達の状況や思いを引き出す方法など学んだことを発表し、意見交換を行う 	との関わりを通して自己の小児観を深め、地域社会における小児看護の役割を表現している		学生カンファレンスでは、実習で体験したことを今まで学んできた知識と照らし合わせて考えているか確認する 小児の発達特性を考え、生活習慣自立に向けた援助、社会性を養うために必要な関わりを考えていけるように指導する
	15:00 ～ 16:15	<p>各クラスにてこどもと関わり、こどもの成長発達の特徴や日常生活の様子について学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつ準備ならびに介助を見学する ・こどもたちの帰宅時の支援を見学する 			

② 病棟実習：4～7日目（9時間×3日、6時間×1日）

学習活動	時間	学習内容	評価規準	評価資料	指導方法
社会の中で暮らす小児やその家族について理解する	8:30	<p>受けもち患児の身体的状況を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理報告を聞く ・病棟オリエンテーションを受ける ・新しい受けもち患児を担当するとき：指導者より受けもち患児について説明を受け、患児とその家族にあいさつを行う ・受けもち患児の情報収集を行う <p>受けもち2日目以降：担当看護師と計画の打ち合わせを行う（夜間の情報はカルテより情報収集を行う）</p> <p>【ハイリスク新生児を受けもつ場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児室に入院している患児の観察、家族の様子をから以下の内容を学ぶ。 	小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している 小児の成長発達段階や個別性に応じた援助を	実習記録（患者記録Ⅰ・1日の実習計画） カンファレンス発言 実習状況 面接	<p>病棟オリエンテーションについて、内容・方法を事前に指導者と調整する。指導者が行う病棟オリエンテーションに同席し、小児病棟特有の構造・物品について説明を受け、学生の理解状況を確認し、必要時追加説明を依頼する</p> <p>初めて患児を受けもつ場合には、指導者より受けもち患児の情報や関わり方などの説明を受け、患児の疾病や治療の過程が捉えられるように指導する</p> <p>受けもち患児と家族に関わる際に、学生が困っていないか確認する。患児との関わり方に困っている場合は患児の状況から患児の苦痛や思いを想起させ、どのような関わりがいいか考えられるように促す。また、児の状況に</p>

<p>小児の成長発達を促すための取り組みを実践する</p> <p>小児の権利を護るための行動をする</p>	<p>12:00</p> <p>12:45</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク新生児の形態的特徴、機能的特徴を理解する。 ・ハイリスク新生児に起こりうる問題を考える。 ・ハイリスク新生児の観察、身体測定、清潔の援助、治療や検査の援助、栄養供給への援助の実際を見学、または実施する。 ・ハイリスク新生児にとって望ましい環境を児の特徴から考え、保育器の取り扱い方法を学ぶ。 <p>健康障がいを抱える小児と関わり、小児の思いを考える 患児の身体的特徴を観察し、観察の方法を学ぶ 受けもち患児のケアを通し、児の成長発達の状況、日常生活習慣の自立状況を把握し、健康障がいや入院によって小児の日常生活がどのように影響を受けているか考える</p> <p>健康障がいを抱える小児に行われているケアを見学し、小児の看護で大切だと思う場面をとらえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受けもち患児やその家族と関わる ・環境整備実施 ・受けもち患児に行われているケア（バイタル測定、採血、清拭、点滴管理など）を見学する ・2日目以降は、受けもち患児の状態に合わせた援助を計画する（児や家族に必要な指導、遊びの企画、学習の支援、生活習慣への支援など） ・11:00までに看護師に報告を行う ・身体計測、検査、処置、入院時の病歴聴取の機会があれば見学を行う <p>昼食を通し、受けもち患児の食行動の自立状況を把握し、必要な支援を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食の配膳、または食事介助（児の状況に合わせて休 	<p>考え実践している</p> <p>小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている</p> <p>小児や家族との関わりを通して自己の小児観を深め、地域社会における小児看護の役割を表現している</p>	<p>合わせた遊びを一緒に考え、関わり方を工夫するなどアドバイスを行う</p> <p>看護師は学生と一緒にケアに回り、観察の視点や援助時に注意することを説明し、学生が小児看護で大切だと考えるきっかけを作る</p> <p>受けもち患児のバイタルサイン測定にあたり、適切なマンシエットの選択ができていないか、小児のバイタルサインの正常値からアセスメントしているか確認する</p> <p>小児に起こりやすい事故の特徴と病棟で起こりやすい事故について知識を確認しながら環境を整えているか指導する</p> <p>検査・処置ならびに入院時の病歴聴取の見学が可能であれば看護師の実施を見学できるように促す</p> <p>学生がカンファレンステーマを決めることができているか確認し、出来ない場合はアドバイスする</p> <p>カンファレンスでは、自己の体験を表現しているか、そこから看護について考えているか確認し、学生の体験が</p>
---	---------------------------	--	--	---

自己の小児看護観を表現する	15:00 ～	憩をとる) 面会に来ている家族の言動に着目し、家族の思いに耳を傾け、家族も小児看護の対象であることを理解する ・バイタルサイン測定実施、看護師の指導のもとに児への援助を実施または見学する 学生カンファレンスで、見学したこと、体験したことの中より小児看護について自己の考えを深める ・学生カンファレンスでは、1日の実習で体験したことより学びを深めていく ・カンファレンステーマは、学生が主体的に決めて運営していく ・カンファレンステーマは、1日目は「1日を通して学んだこと」、2日目以降は学生間で考えて昼休みまでに決め、教員と指導者にテーマを伝える		日々のラベルとプロセスチャートレポート	表現できるように引き出す。また、看護について考えが深まるように意見交換を促す。指導者と打ち合わせを行い、小児看護についての考えをアドバイスする カンファレンス終了後、翌日の実習計画・目標の指導を行う
	16:15	【実習最終日】 プロセスチャートの作成を通して地域における小児看護の役割を考える ・日々に実習で、「子どもたちや家族が地域で暮らしていくために必要な援助は何か」を考え、1日1枚のラベルに記入していき、実習の最終提出記録として、12枚のラベルを使いプロセスチャートを作成する ・13時～14時頃、最終カンファレンスとして、「社会の中で暮らす小児と家族に対する看護の役割」をテーマに、プロセスチャートの発表をする。			看護技術到達度チェックリストを確認し、技術到達状況を把握する。小児科領域特有の看護技術（身体計測、吸入、吸引、沐浴）や、見学により学ぶことのできる技術がある場合は、学生が立ち会えるように調整する。 プロセスチャートの発表では、テーマを意識した発表となるよう促す。抽象的にならないよう、場面を具体的に取り上げ、その時動いた学生の感情を引き出し、学生が自己の小児看護観を語れるようにする。 カンファレンスのまとめでは、指導者からも小児看護で大切にしていること等を話してもらう。

③ 小児科外来実習（9時間×1日）

学習活動	時間	学習内容	評価規準	評価資料	指導方法
社会の中で暮らす	8:25	・小児科外来に行き、外来看護師に挨拶を行い、実習目標を発表する	小児の成長発達の特徴	実習記録（外来実	事前に外来実習で学ぶ視点を確認し、注意事項を説明する。

<p>小児やその家族について理解する</p> <p>小児の権利を護るための行動をする</p>	<p>8:30</p> <p>13:00</p> <p>15:00</p> <p>15:30</p>	<p><一般外来></p> <p>健康障がいを持ち、受診行動を取る病児とその家族と関わり、病児や家族の思いから看護について考える</p> <p>痛みを伴う処置や検査の見学を通し、児の安全で負担が少ない援助の方法と看護を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児科外来に初診で訪れた小児と家族に同行し、待合室から帰宅につくまで受診行動の全過程を通し、小児と家族の心理について観察する。 ・診察・処置の場面では看護師の指導のもと、診療の介助・計測・処置・患者や家族への指導を見学する <p><予防接種外来></p> <p>小児に特有な感染症に関する知識と実際を結びつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予防接種外来で行われていることを見学し、小児に予防接種を行う方法と家族への説明、留意点を理解する。 ・受診してくる児の身体計測を看護師と一緒にを行う ・予防接種外来の一連の流れを見学する ・接種前の診察・予防接種の実際・家族への説明の見学を行う <p><乳児健診外来></p> <p>乳児健診を見学し、小児の成長発達のために、乳児健康診査の意義を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児健診見学 ・看護師の指導のもとに、乳児の計測を行い、児の特徴を観察する ・診察、生活指導、離乳食指導などを見学し、乳児健診で行われていることを学ぶ ・育児に対する母親の不安を傾聴し、医師・看護師の関わりより、支援について考える <p>学生カンファレンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟に戻り実習メンバーでカンファレンスを実施する 	<p>を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している</p> <p>小児の成長発達段階や個別性に応じた援助を考え実践している</p> <p>小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている</p> <p>小児や家族との関わりを通して自己の小児観を深め、地域社会における小児看護の役割を表現している</p>	<p>習)</p> <p>カンファレンス発言</p> <p>実習状況</p> <p>面接</p>	<p>診察の補助を通し、小児や家族の反応を観察できるように指導する</p> <p>外来受診時の小児の体調に応じて、学生がそばにいてことで負担が生じているようであれば、必要時調整を行う</p> <p>初診の小児がいない場合には、診療の介助、検査、処置の見学を行えるように促す（初診でなくても診療の場で小児や家族の様子を見学できるように調整する）</p> <p>事前に予防接種に関する知識を確認し、法律や施策との関連についても結び付けて考えられるように指導する</p> <p>予防接種時の外来看護師の援助や体験を通し看護のあり方を考えられているか記録上で確認する</p> <p>看護師の指導の下、診療の補助の体験を通し、小児の成長発達の理解を深められるように指導する</p> <p>小児や家族に対して医療の場だけではなく、保健や福祉との連携、学校や保育園などの教育との連携が必要であることを言葉で表現できているか記録上で確認する</p> <p>カンファレンスは病棟実習に準ずる</p>
--	--	--	---	--	--

④ 発達障がい児支援施設実習（特別支援学校）（OT2時間+実習7時間×2日、学びの統合2時間）

学習活動	時間	学習内容	評価規準	評価資料	指導方法
<p>社会の中で暮らす小児やその家族について理解する</p> <p>小児の成長発達を促すための取り組みを実践する</p> <p>小児の権利を護るための行動をする</p>	<p>5月 14:30 ～ 16:30</p> <p>9:00</p> <p>12:00</p> <p>13:30</p> <p>15:45 ～</p>	<p>【事前オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障がい児支援施設実習の事前準備として、施設の概略と施設の機能や様子を知る 実習における学生の行動や実習の方法をイメージする 実習における配慮点を理解する 施設内の見学をする <p>【実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間までに更衣をすませて、施設職員にあいさつを行う 教育を受ける児童の様子を観察し、関わり、児童の思いを受け止め、コミュニケーションをとる方法を学ぶ 児童の登校を手伝う。児童や家族の様子や教員との関わりの場面を見学する 小学部または中学部のクラスに入り、担当教員の指導のもと、学校の日課に沿って児童と一緒に過ごす。 児童の状況に応じた日常生活援助の方法を学ぶ 児童の健康障がい、発達障がいの状況を知り、職員の指導のもとに日常生活援助を行う 看護師のケアの場をを観察し、児童に必要なケアを学ぶ 児童の食事行動を観察し、必要な支援を考える 児童の食事の様子を観察し、必要な場合は食事介助を行う <p>児童や家族と学校との連携の実際を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 各クラスにて実習 引き続き、児童と関わる 児童の帰り支度を手伝い、児童やその家族とコミュニケーションを図る <p>カンファレンスでは、児童との関わりを通し、気づいたこと、保健医療・福祉・教育との連携について、健康や発達</p>	<p>小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している</p> <p>小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている</p> <p>小児や家族との関わりを通して自己の小児観を深め、地域社会における小児看護の役割を</p>	<p>実習記録（障がい児支援施設実習）</p> <p>カンファレンス発言</p> <p>実習状況面接</p>	<p>特別支援学校で実習をする学生は、幼児期の障がい児支援の実際を理解するため、見学実習はいこいの家に行く</p> <p>特別支援学校での実習オリエンテーションは、実習初日の午前中に受ける</p> <p>事前に特別支援学校実習担当教員と打ち合わせを行い、オリエンテーション内容の確認を行う</p> <p>各クラスに入り、担当教員の見守りのもと、一人ひとりの児童と関わる。コミュニケーションの取り方に困った学生へは、教員の関わり方を参考にするように促す</p> <p>看護師や施設の教員の関わりを見学することにより、どのように健康保持や増進をはかっているのか述べられるように促す。</p> <p>健康や発達に障がいをもちながらも教育を受けている児の様子を観察し、児にとって教育を受ける意義を考え、保健医療・福祉、教育の連携が大切なことに気づけるように指導する。</p> <p>健康障がいをもちながら家庭や地域で生活している小児に必要な継続看護、在宅看護について考え、その必要性を記録上に表現できるよう指導する。</p>

	16:45	更衣 に障がいを抱える児童が在宅で療養するために看護ができることについて考えを深める ・学生カンファレンスを行い、日々の学びを深める ・1日目：実習指導教員の指導を受け、児との関わり方、個別性について考える ・2日目：担当教員、実習指導教員とともに2日間の学びを深める	表現している		
--	-------	--	--------	--	--

⑤ 発達障がい児支援施設実習 心身障がい児福祉センターいこいの家（OT2時間+実習7時間×2日、学びの統合2時間）

学習活動	時間	学習内容	評価規準	評価資料	指導方法
社会の中で暮らす小児やその家族について理解する 小児の成長発達を促すための取り組みを実践する 小児の権利を護るための行動をする	5月 14:30 ～ 16:30 8:30 12:00 13:30	<p>【事前オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障がい児支援施設実習の事前準備として、施設の概略と施設の機能や様子を知る 実習における学生の行動や実習の方法をイメージする 実習における配慮点を理解する 施設内の見学をする <p>【実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間までに更衣をすませて、施設職員にあいさつを行い、本日の目標を伝える こどもたちの様子を観察し、関わり、こどもの思いを受け止め、コミュニケーションをとる方法を学ぶ 通園してくるこどもの登園を手伝う。こどもや家族の様子や教員との関わり場面を見学する 各クラスに入り、こどもたちの活動やこども同士の関わりを見学する こどもの状況に応じた日常生活援助の方法を学ぶ こどもの食事行動を観察し、必要な支援を考える こどもの健康障がい、発達障がいの状況を知り、職員の指導のもとに日常生活援助を行う 	小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している 小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている 小児や家	実習記録（障がい児支援施設実習）カンファレンス発言 実習状況 面接	事前に施設担当者と打ち合わせを行い、オリエンテーション内容の確認を行う。 実習のイメージがつくようにオリエンテーションを実施する。 各クラスに入り、職員の見守りのもと、一人ひとりのこどもと関わる。コミュニケーションの取り方に困った学生へは、職員の関わり方を参考にするように促す 看護師や施設の職員の関わりを見学することにより、どのように健康保持や増進をはかっているのか述べられるように促す。

	15:15	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師・施設職員のケアの場면을観察し、こどもに必要なケアを学ぶ ・こどもの食事の様子を観察し、必要場合は食事介助を行う <p>こどもや家族と学校との連携の実際を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの帰り支度を手伝う <p>カンファレンスでは、こどもとの関わりを通し、気づいたこと、保健医療・福祉・教育との連携について、健康や発達に障がいを抱えるこどもが在宅で療養するために看護ができることについて考えを深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生カンファレンスを行い、日々の学びを深める <p>1日目：担当教員とともにこどもたちとの関わり方やこどもたちが生活している様子から施設に通う意義について考える</p> <p>2日目：担当教員、実習指導教員とともに2日間の学びを深める</p>	族との関わりを通して自己の小児観を深め、地域社会における小児看護の役割を表現している		<p>健康や発達に障がいをもちながら生活しているこどもの様子を観察し、こども同士の触れ合いや施設に通う意義を考え、保健医療・福祉、教育の連携が大切なことに気づけるように指導する。</p> <p>健康障がいをもちながら家庭や地域で生活している小児に必要な継続看護、在宅看護について考え、その必要性を記録上に表現できるよう指導する。</p>
	15:45 ～ 16:15	<p>施設職員とともに清掃を行い、通園しているこどもたちの環境について考える</p>			

⑥ 発達障がい児支援施設実習 社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団 静岡市清水うみのこセンター（OT2時間+実習7時間×2日、学びの統合2時間）

学習活動	時間	学習内容	評価規準	評価資料	指導方法
社会の中で暮らす小児やその家族について理解する	4月、7月 14:00 ～ 16:00	<p>【事前オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい児支援施設実習の事前準備として、施設の概略と施設の機能や様子を知る ・実習における学生の行動や実習の方法をイメージする ・実習における配慮点を理解する ・施設内の見学をする <p>【実習】</p>	小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健	実習記録（障がい児支援施設実習） カンファレンス発言	<p>実習のイメージがつくようにオリエンテーションを実施する。</p> <p>事前に施設担当者と打ち合わせを行い、オリエンテーション内容の確認を行う</p>

<p>小児の成長発達を促すための取り組みを実践する</p>	<p>8:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間までに更衣をすませて、施設職員にあいさつを行い、本日の目標を伝える こどもたちの様子を観察し、関わり、こどもの思いを受け止め、コミュニケーションをとる方法を学ぶ ・通所してくるこどもの受け入れを手伝う。こどもや家族の様子や教員との関わりの場面を見学する <p>通園してくる親子の様子を観察しながら関わり、こどもの思いを受け止め、コミュニケーションをとる方法を学ぶ</p> <p>親子ひとり一人の状況に応じた関わり方を学ぶ</p> <p>こどもたちの帰り支度を手伝い、施設職員と家族の連携を学ぶ</p>	<p>康状態を表現している</p> <p>小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている</p>	<p>実習状況 面接</p>	<p>各クラスに入り、職員の見守りのもと、一人ひとりのこどもと関わる。コミュニケーションの取り方に困った学生へは、職員の関わり方を参考にするように促す。</p>
<p>小児の権利を護るための行動をする</p>	<p>12:00</p>	<p>休憩</p>	<p>小児や家族との関わりを通して自己の小児観を深め、地域社会における小児看護の役割を表現している</p>		<p>看護師や施設の職員の関わりを見学することにより、どのように健康保持や増進をはかっているのか述べられるように促す。</p>
	<p>13:00</p>	<p>午前の活動に準ずる</p> <p>カンファレンスを通し、健康や発達に障がいをもつ母子との関わり方を学び、子どもの健やかな成長発達促進に向けた、地域における看護の役割について考える</p> <p>こどもたちの受け入れ準備、帰宅後の清掃など、こどもたちが安全に過ごせる環境について考える</p>			<p>健康や発達に障がいをもちながら生活しているこどもの様子を観察し、こども同士の触れ合いや施設に通う意義を考え、保健医療・福祉、教育の連携が大切なことに気づけるように指導する。</p>
	<p>15:15</p>	<p>1日目：担当教員とともにこどもたちとの関わり方やこどもたちが生活している様子から施設に通う意義について考える</p>			<p>健康障がいをもちながら家庭や地域で生活している小児に必要な継続看護、在宅看護について考え、その必要性をレポート上に表現できるよう指導する。</p>
	<p>～</p>	<p>2日目：担当教員、実習指導教員とともに2日間の学びを深める</p>			
	<p>16:15</p>	<p>施設職員とともに清掃を行い、通園しているこどもたちの環境について考える</p>			

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
社会の中で暮らす小児やその家族について理解する	小児の成長発達の特徴を理解し、様々な状況にある児や家族の健康状態を表現している	対象理解 探求心	事前学習 実習記録 カンファレンス発言 実習状況 面接	小児の成長発達段階や日常の暮らしをふまえ、小児や家族の身体・心理・社会的な健康状態を基礎的知識と関連させて解釈している。 20	小児の成長発達段階や、小児とその家族の健康状態について解釈している。 15	小児の成長発達段階や、健康状態について情報収集している。 10	小児の成長発達や健康状態の特徴を表現している。 5
小児の成長発達を促すための取り組みを実践する	小児の成長発達段階や個性に応じた援助を考え実践している	対象理解 実践力 調整力	事前学習 実習記録 カンファレンス発言 実習状況 面接 調整状況	小児やその家族の望ましい姿の実現にむけ、根拠に基づいた援助を実践し、小児の個性を捉えて、より良い関わりに発展させている。 25	小児の発達段階や健康状態に応じた必要な援助を考え、安全に配慮して実践している。 15	気づきを視点に、対象者に必要な援助を実践している。 10	看護師が行う援助を、指導者と一緒に実践している。 5
小児の権利を護るための行動をする	小児の権利を理解し、倫理観をもって小児やその家族と関わっている	実践力 倫理観	実習記録 カンファレンス発言 日々のラベル プロセスチャート 実習状況 面接	小児の体験していることをありのままに捉え、小児や家族の生活上の信条や価値に注目し、思いや考えを尊重して関わっている。 20	小児の発するサインに気づき、小児の欲求に応じる関わりをしている。 15	小児との関わりを通し、小児の権利擁護の必要性について注目した発言がある。 10	小児の尊重すべき権利について、理解したことを表現している。 5
自己の小児看護観を表現する	小児や家族との関わりを通して自己の小児観を深め地域社会における小児看護の役割を表現している	探求心 倫理観	日々のラベルとプロセスチャート 実習状況 レポート・面接	日々の様々な体験から自己の小児観を深め、地域における小児看護の役割を表現している。 20	実習体験をもとに、小児看護の役割を表現している。 15	日々の実習体験を振り返り、得たことを表現している。 10	自己の体験を表現している。 5
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する。	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。 15	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。 10	社会的規範は守っているが、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る意識が低い。 5	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。 0

実習指導者助言

欠課時間
() 時間 / 90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

実習指導者サイン

担当教員サイン